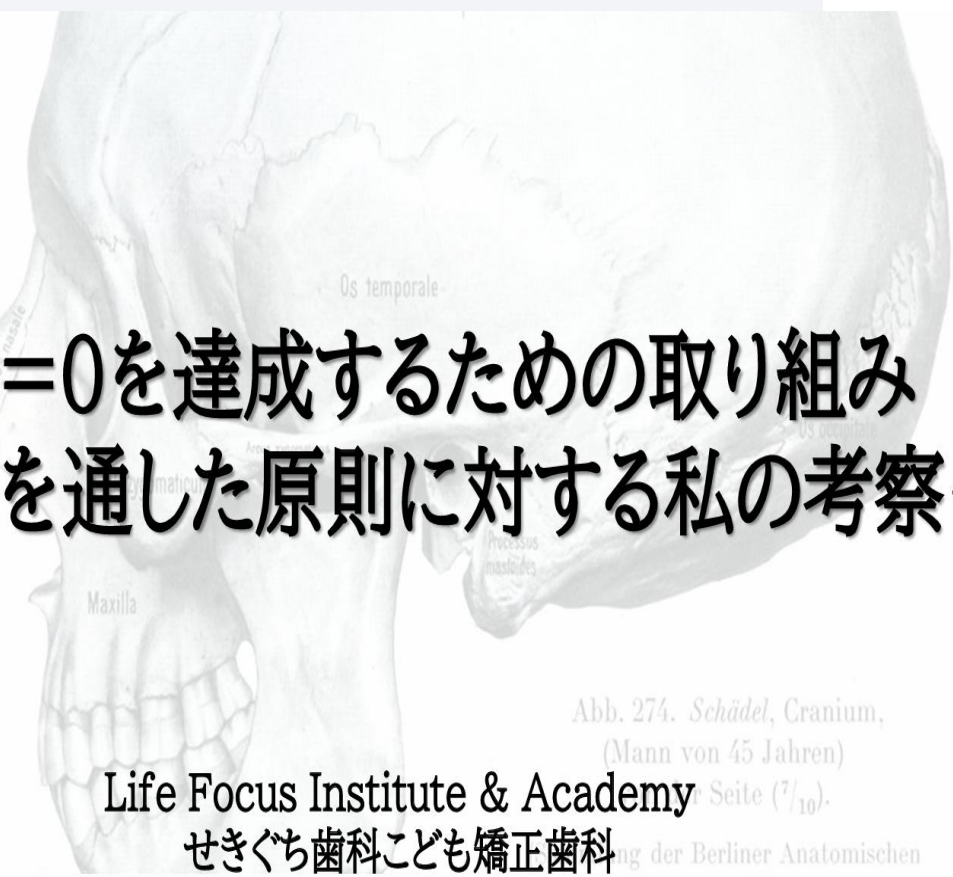


子どもの咬合を考える会

第2回会員研修会

日時：2025年10月5日 会場：都ホテル 京都八条

講師：関口一樹 先生



HC=0を達成するための取り組み
～生涯を通した原則に対する私の考察～

Life Focus Institute & Academy Seite (7/10).

せきぐち歯科こども矯正歯科

HC=0を達成するための取り組み ～生涯を通した原則に対する私の考察～

Life Focus Institute & Academy

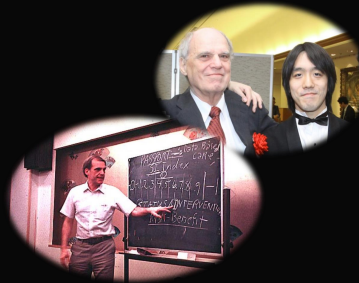
せきぐち歯科こども矯正歯科

Kazuki Sekiguchi

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
Seite (?)
[Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.]
(Fk. Fronten del.)

0-Concept
HC=0 (Health Care 0)

There is a reason for everything.



Dr. Daryl R. Beach



Prof. John Mew

pdマイクロスコープコース



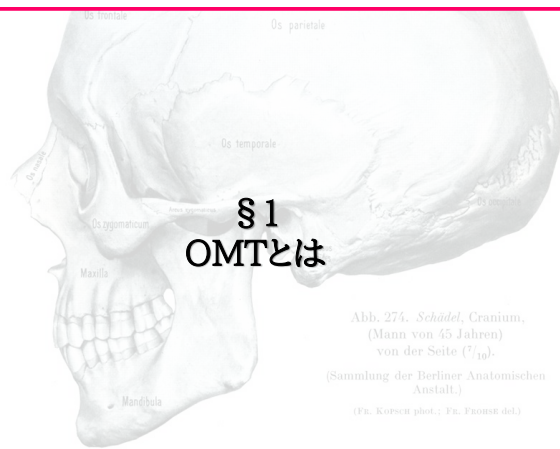
筋機能療法コース



成人における咬合再構成:咬合学
顎口腔系の機能的回復:補綴学・矯正学
解剖学・人類学・発生学
咬合の構成要素:咬合平面・下顎位・ガイド

キーワードは「原因」と「代償」

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?)
[Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.]
(Fk. Korseen phot.; Fk. Fronten del.)



§1 OMTとは

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?/19).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsen phot.; Fr. Frosen del.)

Orofacial Myofunctional Therapyとは

単なる筋トレではなく、健康でいられるために必要な治療

MFT・OMFTと同義

似たものとしてTongue thrust therapyがある。



Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?/19).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsen phot.; Fr. Frosen del.)

こんな人見かけませんか？

口腔内

- ・歯並びの問題がある
- ・歯の欠損がある
- ・咬耗・摩耗が激しい
- ・破折を繰り返す

顔貌

- ・面長な人
- ・おくちをぼかんと開いている
- ・眼の下のクマがある

機能的症状

- ・治療中むせる
- ・日常よくむせる
- ・いびきがある
- ・顎関節症がある
- ・誤嚥性肺炎の既往がある

子ども

- ・くちやくちやたべ
- ・悪い姿勢
- ・落ち着きがない

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?/19).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsen phot.; Fr. Frosen del.)

口腔顔面筋機能障害 Orofacial Myofunctional Disorders (OMDs)

を治す治療が

口腔顔面筋機能療法 Orofacial Myofunctional Therapy (OMT)

Orofacial Myofunctional Therapy

OMTを行う人

Orofacial Myofunctional Therapist 口腔顔面筋機能療法士

歯科衛生士、言語聴覚士を始め、OMTを行う人



Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?/19).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsen phot.; Fr. Frosen del.)

口腔顔面筋機能障害
Orofacial Myofunctional Disorders
(OMDs)
を治す治療が
口腔顔面筋機能療法
Orofacial Myofunctional Therapy
(OMT)

こんな人見かけませんか？

口腔内

- ・歯並びの問題がある
- ・歯の欠損がある
- ・咬耗・摩耗が激しい
- ・破折を繰り返す

顔貌

- ・面長な人
- ・おくちをぼかんと開いている
- ・眼の下のクマがある

機能的症状

- ・治療中むせる
- ・日常よくむせる
- ・いびきがある
- ・顎関節症がある
- ・誤嚥性肺炎の既往がある

子ども

- ・くちやくちやたべ
- ・悪い姿勢
- ・落ち着きがない

不正咬合が見られる場合、必ずOMDが存在するため、OMTが必須となる

↓
Therapistの役割は大変重要である！

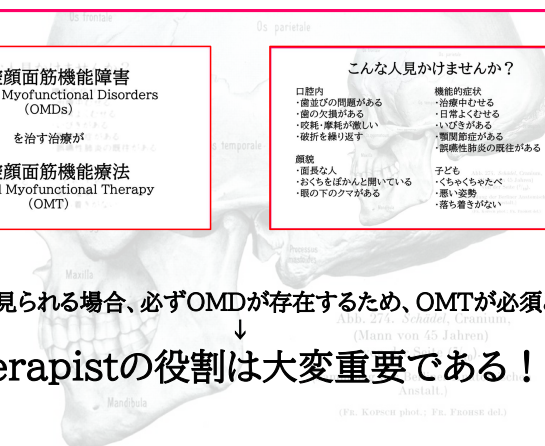


Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?/19).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsen phot.; Fr. Frosen del.)

§ 2 OMTのメカニズムと各論

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?).
[Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.]
(Fr. Korsch phot.; Fr. Fraumeni del.)

OMTって何をすればよいの？

OMTはOMDを治すための治療
OMTの治療目標は…筋の最適なポスチャー

ポスチャーとは…動的な影響のない体の部分の相対的な配置

舌は口蓋に位置し、口唇は閉じ、1日4～8時間歯が軽く咬み合っているという正しいオーラルポスチャーが達成される時、顎と歯の理想的発育が確立される。



Dr. John Mew

ポスチャーとマッスルトーン

ポスチャー: 動的な影響のない体の部分の相対的な配置
マッスルトーン:

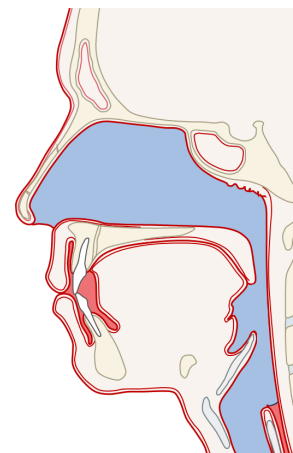
Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (?).
[Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.]
(Fr. Korsch phot.; Fr. Fraumeni del.)



Dr. John Mew

OMTの目標

筋の最適なポスチャー



Capsular Matrix : 被膜マトリックス

顎顔面における「空間」が大事である。
筋肉は顎顔面の被膜を形成する壁の大部分を占めている。
筋のポスチャーやマッスルトーンの状態によって口腔並びに咽頭の空間のサイズや形が決まる。

消化器系や呼吸器系が正しく機能するためには、口腔や鼻咽頭が機能的に十分に開存していなければならない。
→生理的な空間条件を整えることが、顔面頭蓋の発育に対する後成的制御に極めて大切である。

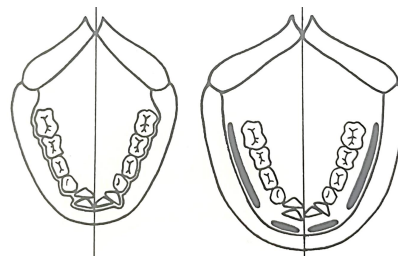
口腔周囲の軟組織の被膜が「被膜気質」を構成し、成長に伴う被膜の拡張によって下顎の空間における位置が下方・前方に転移する。口腔周囲の被膜の筋肉部分が、下顎の前下方の変位を規定する重要な役割を果たしているものと思われる。基本的に、下顎懸垂筋の状態によって下顎骨の位置が決まり、発育過程での下顎位も筋肉で規定される。

ML Moss et al. The primary role of functional matrices in facial growth. Am J Orthod (1969)
ML Moss et al. The capsular matrix. Am J Orthod (1969)



Dr. Melvin Moss

Capsular Matrix : 被膜マトリックス



空間を変えることにより Muscle Toneの最適化

ML Moss et al. The primary role of functional matrices in facial growth. Am J Orthod (1969)
ML Moss et al. The capsular matrix. Am J Orthod (1969)



Dr. Melvin Moss



Dr. Rolf Fränkel

ポスチャーとは？機能とは？

ポスチャー： 静的な配置
→ポスチャーの異常
：お口ぼかん・低位舌

マッスルトーン
Muscle Tone

機能： 動的な状態
→機能の異常：正常なポスチャーが獲得できないことによる代償
：口呼吸・異常嚥下

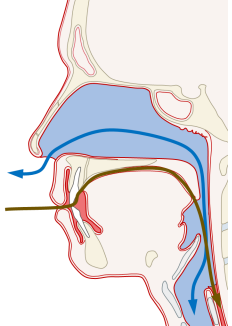


Muscle Tone：マッスルトーンの重要性

ポスチャー(舌・口唇・頬筋など)が最適な場合、その筋の緊張はプラスでもマイナスない状態で静止している。



空間の考察



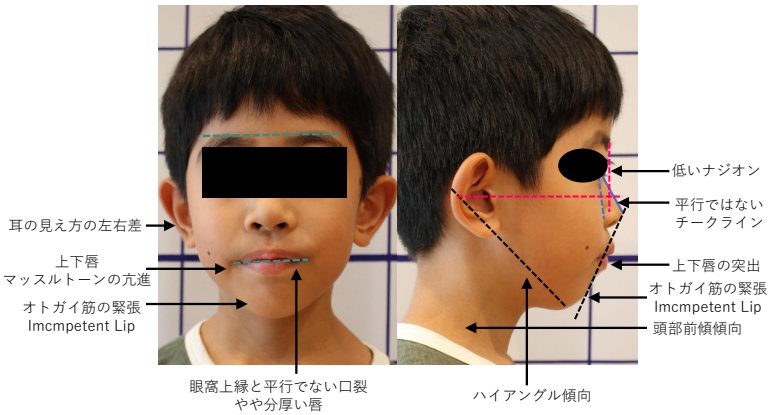
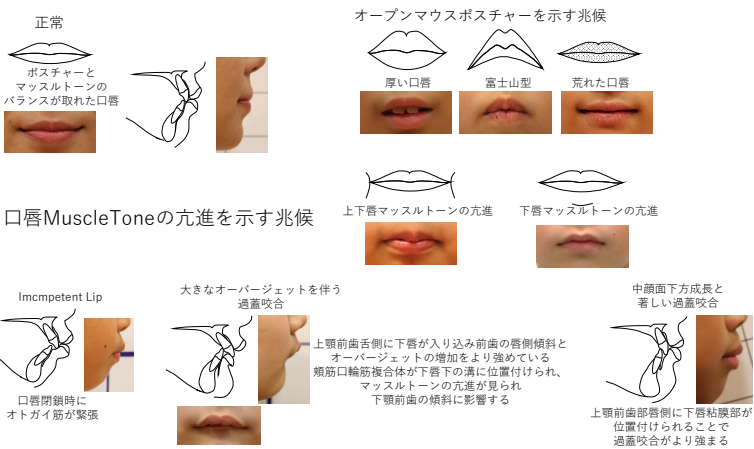
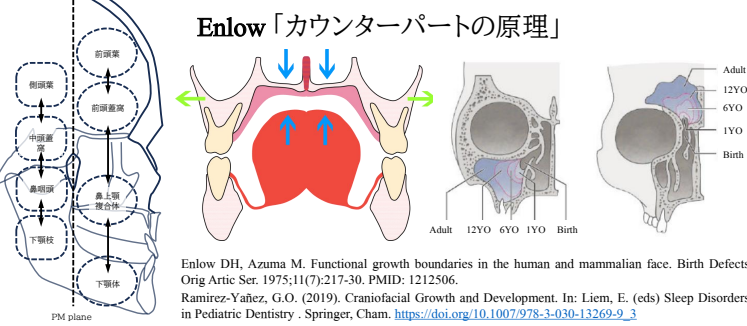
空間は二つある
鼻から肺までの空間
口腔から食道に入る空間



最適化するに必要な項目
マッスルトーン：筋のポスチャー
機能：摂食嚥下・呼吸機能

ML Moss et al, The primary role of functional matrices in facial growth. Am J Orthod (1969)
ML Moss et al, The capsular matrix. Am J Orthod (1969)

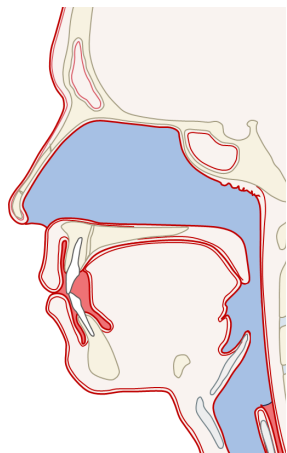
発達・発育期における
タングポスチャーと呼吸機能の重要性



OMTの目標

筋の最適なポスチャー

…を達成するために
正しい嚥下の習得も必要



正しい嚥下機能

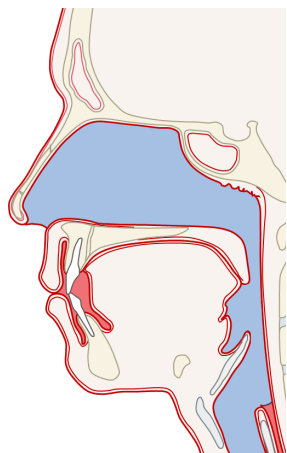


代償として何が見られるか
含む水の量
頬筋・口輪筋・オトガイ筋の緊張
うなづき・まばたき など

OMTの目標

筋の最適なポスチャー

…を達成するために
正しい嚥下の習得も必要

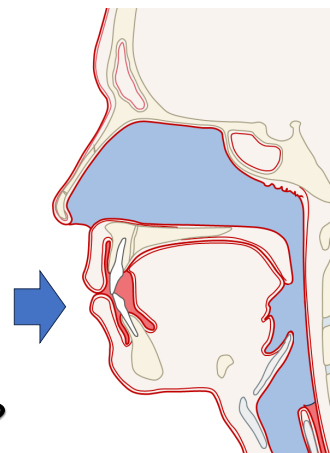


OMTの目標

筋の最適なポスチャー

この筋の状態を
常に維持できる

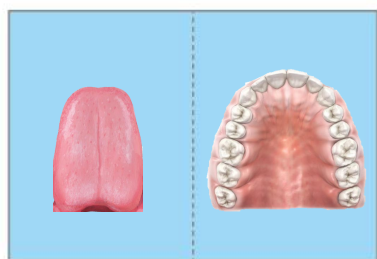
そのためにすべきことは？



TonguePosture

&

morphology



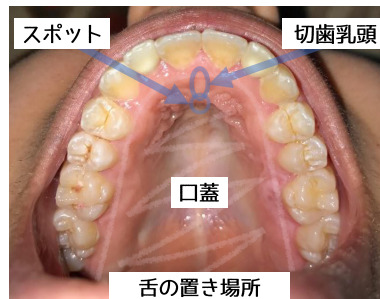
舌の挙上とは？



TonguePosture

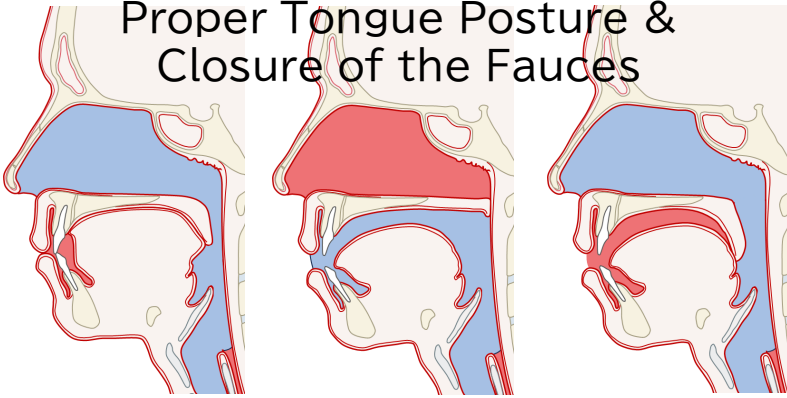
&

morphology



舌の挙上とは？ 舌は前も後ろも挙上している

Proper Tongue Posture & Closure of the Fauces

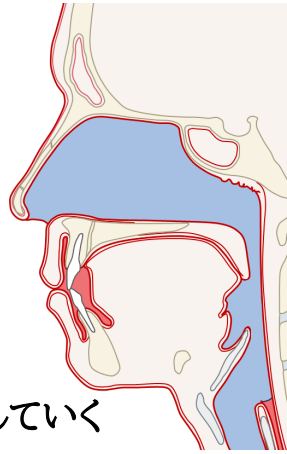


想像してみましょう

筋の不適切なポスチャー

舌の形は？
動きは？
機能は？(吸い上げ)
嚥下は？
口唇は？

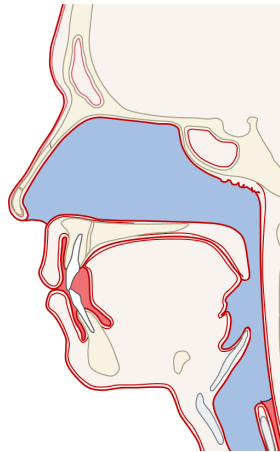
状態に合わせてOMTを処方していく



想像してみましょう

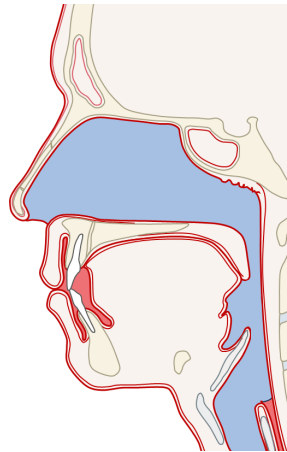
筋の不適切なポスチャー

舌の形は？内舌筋
動きは？外舌筋
機能は？(吸い上げ)外舌筋
嚥下は？内舌筋・外舌筋
口唇は？口輪筋・頬筋
その他周辺の筋も複雑に関与
それぞれの筋の働きを考える

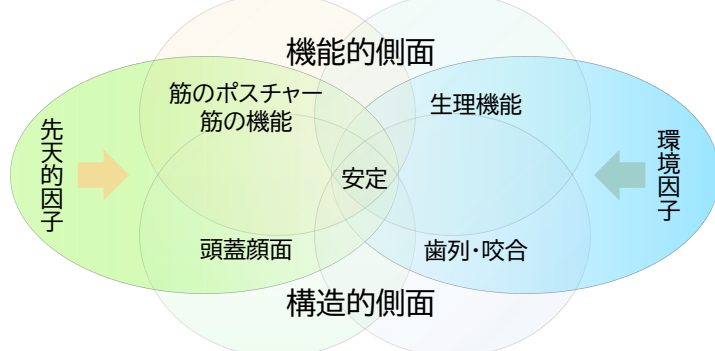


やってみようOMT！

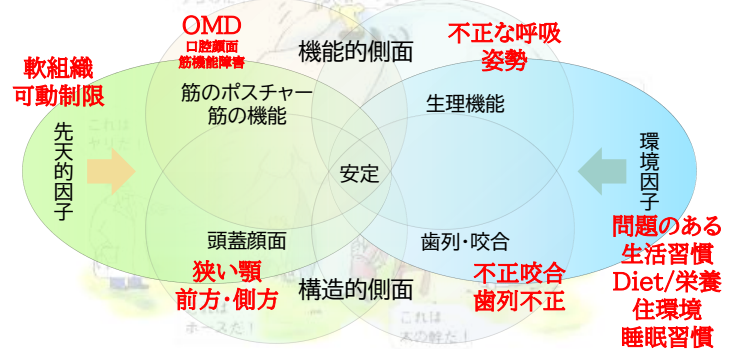
スポット
タンククリック
吸い上げ
サーフボード
スタチュースワロー
バルーンチーク
ベロ回し
ビックリ顔
亀の顔



原因をすべて解決する



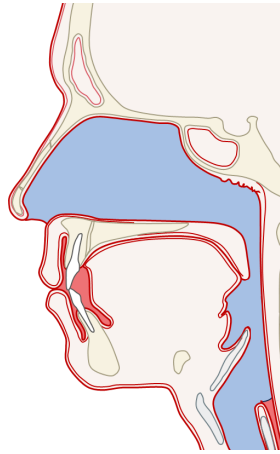
原因:悪化因子をすべて解決する



想像してみましょう

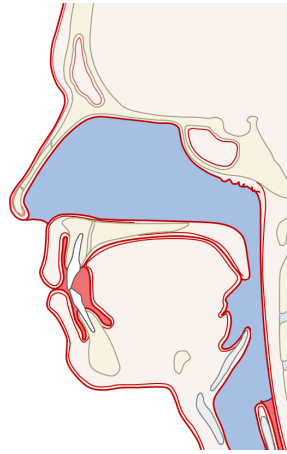
筋の不適切なポスチャー

舌の形は？内舌筋
動きは？外舌筋
機能は？(吸い上げ)外舌筋
嚥下は？内舌筋・外舌筋
口唇は？口輪筋・頬筋
その他周辺の筋も複雑に関与
それぞれの筋の働きを考える



OMTを成功させるために

- ・ワークブックやレッスンバッグ
- ・ゴール達成のチャートや景品
- ・OMTにゲーム性を持たせる
- ・飽きない様にエクササイズのバリエーションを持たせる
- ・通院頻度の調整
- ・環境を整える

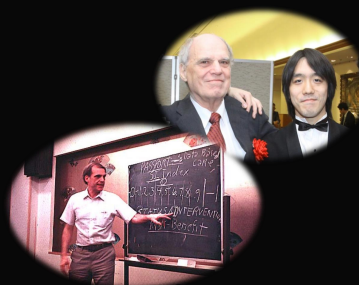


HC=0を達成するための取り組み ～生涯を通した原則に対する私の考察～

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
Seite 274.
Life Focus Institute & Academy
せきぐち歯科こども矯正歯科
Kazuki Sekiguchi
(phot.: Fk. Fromme del.)

0-Concept
HC=0 (Health Care 0)

There is a reason for everything.



Dr. Daryl R. Beach



Prof. John Mew

歯科医療への道

医療の最終目標

Health Care - 0 Dr.Beach

(健康管理の必要性が皆無になること)

医は医なきを期す 東洋の診

Referenced from Dr.Fujimaki

健康	健康促進と予防	機能維持	機能修復	機能の一次的喪失	機能の回復	機能喪失					
0	-0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-1
医事管理 適応なし	評価 記録	口腔の 自己管理	歯肉-歯牙の維持と修正	歯牙修復	軟-硬組織	外科	補綴	障害	完全医療 依存		
自立	診療 記録 学	口腔衛生 食事など 生活習慣の 正常化	患者者による 表面管理 スクリーニング 機能予防的 歯垢など	形態修正 矯正処置 など	歯周処置 ルート・ク リーニング 直接充塞 インレー クラウン など	支持組織 管理 エナメル・ 象牙質管理	歯髄管理 根管処置 歯冠修復 歯橋 インレー クラウン など	歯冠修復 歯橋 インレー クラウン など	部分床義歯 全床義歯 歯肉移植 歯肉切除 など	完全医療 依存	
未病											

口腔健康状態と医療としての人為的介入との指数表 Health Status/Intervention Index

Dr.Beachの素晴らしい点

幅広く様々な分野がある歯科医療を
シンプルにカテゴライズし
治療計画を立案できるトータルシステムを
考案した

健康	健康促進と予防		機能維持		機能修復		機能の一次的喪失		機能の回復		機能喪失	
	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9		
医事管理 適応なし	評価 記録	口腔の 自己管理	歯肉-歯牙の維持と修正			歯牙修復		軟-硬組織		外科	補綴	障害
自立	診療 記録 学	口腔衛生 食事など 生活習慣の 正常化	患者者による 表面管理 スクリーニング 機能予防的 歯垢など	形態修正 矯正処置 など	歯周処置 ルート・ク リーニング 直接充塞 インレー クラウン など	支持組織 管理 エナメル・ 象牙質管理	歯髄管理 根管処置 歯冠修復 歯橋 インレー クラウン など	歯冠修復 歯橋 インレー クラウン など	部分床義歯 全床義歯 歯肉移植 歯肉切除 など	完全医療 依存		
未病												

口腔健康状態と医療としての人為的介入との指数表 Health Status/Intervention Index

基本的予防処置と
積極的予防処置による
治療計画

Dr.Beachの素晴らしい点

幅広く様々な分野がある歯科医療を
シンプルにカテゴライズし
治療計画を立案できるトータルシステムを
考案した

基本的予防処置と
積極的予防処置による
治療計画

成人における咬合再構成:咬合学
顎口腔系の機能的回復:補綴学・矯正学
解剖学・人類学・発生学
咬合の構成要素:咬合平面・下顎位・ガイド

Kazuki Sekiguchi DDS

Born on December 6, 1980

2005: Graduated from Tokyo University of Science
began working at a private dental clinic in Tokyo
Focus: Occlusal approaches for adults, microscope dentistry, etc.

2012: Engaged in home dentistry
Focus: Geriatric dysphagia and feeding

2014: Graduated top of the class with a full scholarship from a music college
(majoring in composition under Masaru)

2014: Returned to and began working at a family dental clinic

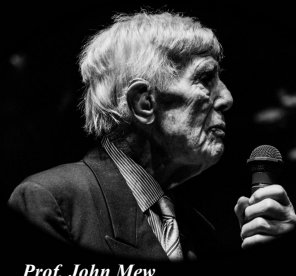
2022: Director, Nippon Geriatric Development Society (NGDS)
Director, Japan Association of Life-giving Nurture of Infants (JALNI)

2023: Certified Food Doctor (Poderhysh Kitchen)

2025: Succeeded the family dental clinic and assumed the position of clinic director

追い求めてきたもの
咬合の最適化
長期的予後良好
オーバートリートメントしない

舌のポスチャーと口唇閉鎖の重要性
中顔面・下顔面の前方成長



Prof. John Mew

There is a reason for everything.



子どもの成長は待ってられません！
ここでしっかりと対応できるかどうかで
子どもの未来が変わります！

舌のポスチャーと前方成長に着目した治療

2016 8YO

2020 12YO



舌のポスチャーと前方成長に着目した治療

2018 8YO

2020 10YO

2024 14YO



臨床は必ず総合的視点から思考をスタート
現症の診断

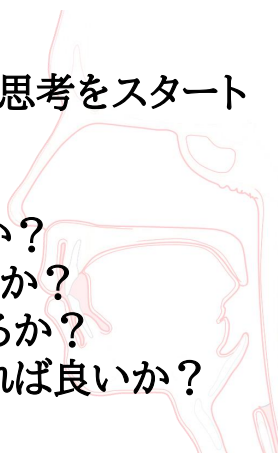


なぜそうなったか？

過去に何があったか？

これから何が起こるか？

生涯安定するにはどうすれば良いか？



§3 代償サイクル

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fk. Korsch plot.; Fk. Frosch del.)

キーワードは「原因」と「代償」

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fk. Korsch plot.; Fk. Frosch del.)

「原因」にアプローチすることで
「代償」を防ぐ、治す

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fk. Korsch plot.; Fk. Frosch del.)



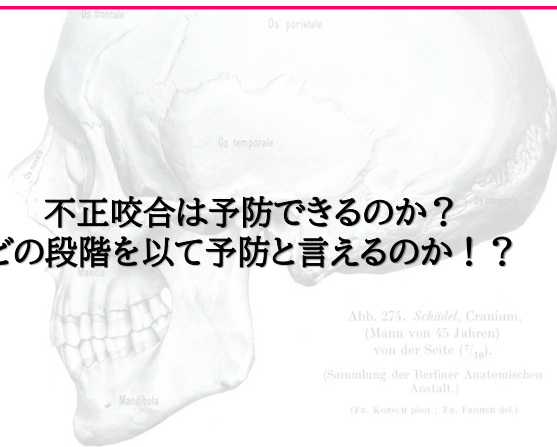
予防

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsch phot.; Fr. Fromm del.)

図1 予防医療の3つの段階

1 次 予 防	食生活など生活習慣を改善し、適度な運動によって健康的な身体を維持したり、予防接種を受けるなどして、病気を未然に防ぐこと 例:適切な食生活、運動、禁煙、ストレス解消など
2 次 予 防	定期検診や検査などで早期に病気を発見することにより、病気の早期治療に取り組むこと 例:健康診断、人間ドック、臨床的治療
3 次 予 防	病気になっても適切な治療などにより病気の増悪防止に努めたり、リハビリテーションにより、病気の回復や再発防止をはかること 例:リハビリテーション、理学療法、機能回復訓練

予防医療.jpより



不正咬合は予防できるのか？
どの段階を以て予防と言えるのか！？

Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsch phot.; Fr. Fromm del.)

咬合関係との関連

原 著

8020達成者の歯にみられた cervical lesion について

金子幸生¹⁾ 茂木悦子¹⁾ 山口尊生¹⁾ 山本貴子¹⁾
竹内史江¹⁾ 野村真弓¹⁾ 宮崎晴代²⁾ 平井基之³⁾
松田一郎⁴⁾ 山口秀晴⁵⁾

8020達成者の咬合状態は、
反対咬合および開咬は認められず、
概ね良好であった

2016 東京歯科大学矯正学講座

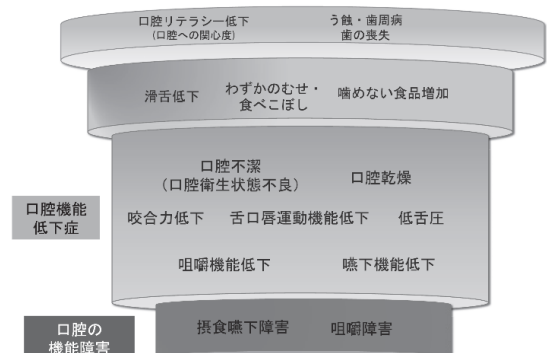
関口のフィロソフィー

生涯にわたる形態・機能の安定を目指す

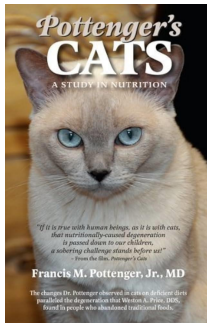
→現症を時間軸的側面を含め総合的に捉え、
原因(悪化因子)をすべて解決する

→HealthCare=0
:医療介入の必要性が無くなることを目標に

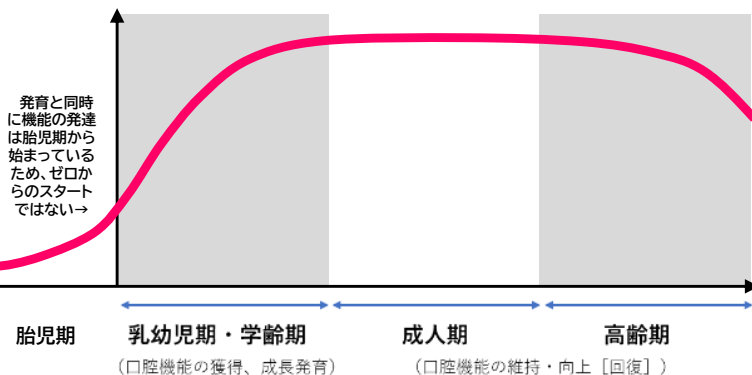
Abb. 274. Schädel, Cranium,
(Mann von 45 Jahren)
von der Seite (7/10).
(Sammlung der Berliner Anatomischen
Anstalt.)
(Fr. Karsch phot.; Fr. Fromm del.)



ポットエンジャーの猫



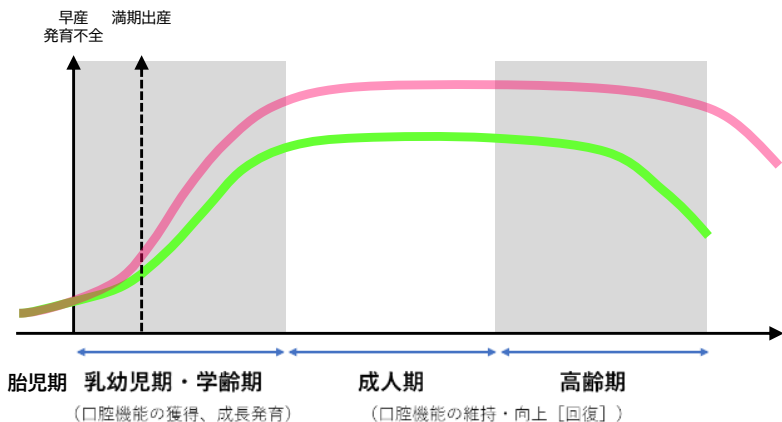
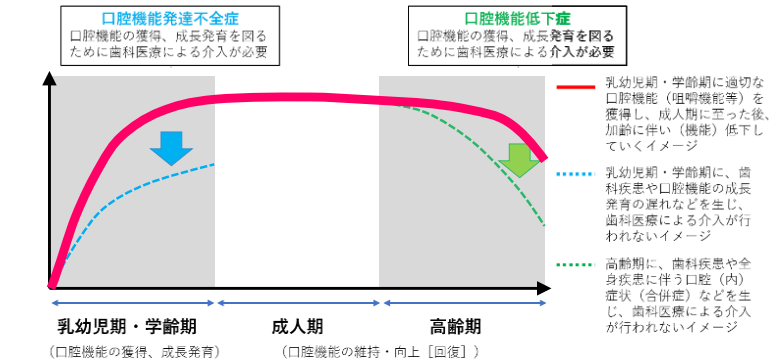
- ・各種に適した自然食を摂取しないことは病気に繋がる。
- ・900匹の猫を自然食群と加工食品群に分け、世代を超えた変化を観察する実験が行われた。
- ・自然食を与えられたグループは健康を維持し、世代を超えて繁殖を続けた。一方、加工食品を与えられたグループでは、世代を重ねるごとに健康問題が増加し、4代目までにほぼ絶滅状態となった。
- ・問題点にはアレルギー、不妊、攻撃性などが含まれた。

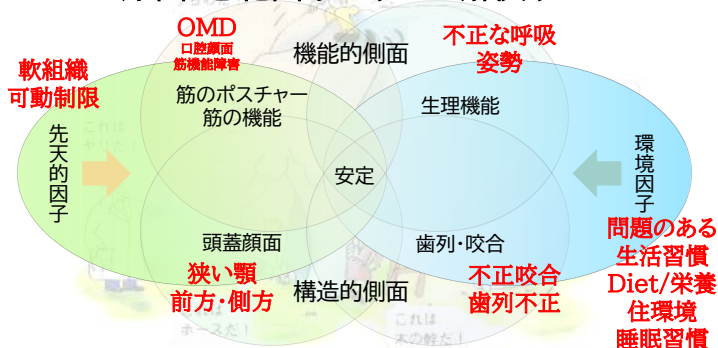
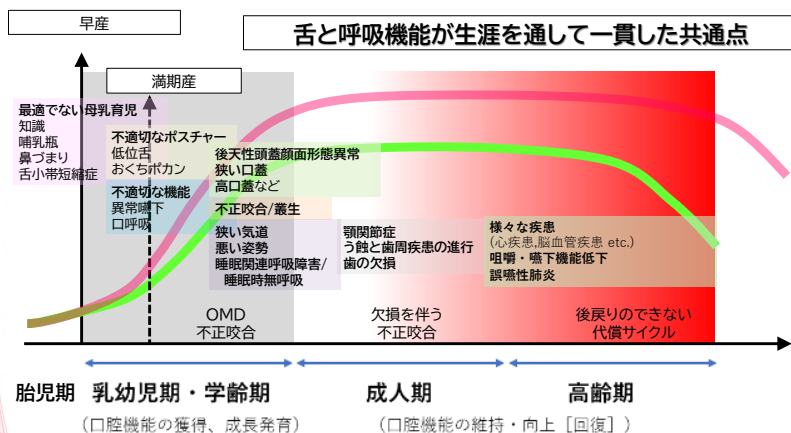
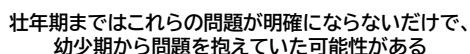


頭蓋顔面の発育

Christian Guilleminaultによる仮説

- 胎児期における最後の3ヶ月、胎児は羊水を嚥下し嚥下訓練を行う。またそれにより外側翼突筋も活性化され下顎枝の良い発育に繋がる。早産の場合これが適切になされず、顎口腔系の発育に問題が生じる。
- 満期出産のためには母体の健康(主に食と睡眠)が必要不可欠である。
- 出産後の母乳育児
- 離乳食:咀嚼・嚥下機能の活性化





Life Focus Institute & Academy

2025年度 下半期コース

○筋機能訓練を主体とした小児不正咬合へのアプローチ

日程:

Day1:10.19 or 10.02 Day2:11.16 or 12.04 Day3:12.14

Day4:01.11 or 01.25 Day5:02.01

場所:東京もしくは埼玉

時間:10:00~16:30

Opdマイクロスコープコース

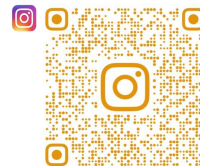
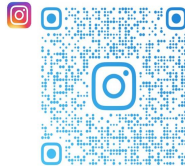
日程:11.02・11.03

場所:せきぐち歯科こども矯正歯科(埼玉)

時間:Day1:10:00~16:30 Day2:9:00~16:00

関口 一樹

kazuki_music_photograph_dental



Life_focus_institute

gu_kazuki@yahoo.co.jp

関口 一樹



